

聞いて「わかる!」を 実感させる指導

— チャンクの活用

椎名紀久子 Shiina Kikuko
(千葉大学)



1. はじめに

リスニングはスピーキングやリーディングの力も伸ばすことのできる重要なスキルです。しかし、日本人英語学習者の多くは、「英語は速くて聞き取れない」、「単語が全部つながって聞こえる」と言って、リスニングは苦手と感じています。その原因の1つは、英語を「語単位」で聞き取ろうとするために、途中から記憶しきれなくなり、「速い!」と感じてしまうのです。そこで「チャンク単位」の聞き取りからはじめるリスニング指導を紹介したいと思います。

2. チャンクとは

チャンクとは、「意味を持つ“語のかたまり”(2～5語程度)」のことで、“Thank you very much.”などの慣用表現はその典型例です。この表現を4つの単語に分けて聞く人はいないでしょう。「ありがとう」を意味する1つのかたまり「チャンク」として記憶しているので、楽に認識できます。チャンクには慣用表現以外にも、「コーパスで高い頻度で現れる語の組み合わせ」、「必ずしもコーパスの出現頻度は高くないが意味のある語のかたまり」などがあります。

3. チャンクの学習法について

新出単語の発音と意味を確認したあと、その単語を含むチャンクを提示し、音声と意味を確認します。チャンクを「聞いてすぐに意味がわかる」ようにしておく、聞き取りの負担が軽減します。まとまりのある英文のリスニングに成功する鍵は、①「聞いてすぐに意味が分かるチャンク」の数を増やすこと、②いくつかのチャンクをつなぎ合わせて「聞いた順に理解していく直聴直解の力」を育てることです。

4. チャンク重視のリスニング指導例

平成24年度版 *NEW CROWN* のリスニング活動に限り、指導書にチャンクが和訳とともに「チャンクリスト」にまとめられています。*Book 1 LESSON 9 USE Listen* の昔話「浦島太郎」では、次のチャンクリストを掲載しています(抜粋)。

Long ago	遠い昔
:	
Thank you.	ありがとう
go under the sea	海底に行く
The man and the turtle	男とカメ
went into the sea	海に潜っていった

タスクの前に、次の手順で学習させましょう。

- 1) 教師：各チャンクを2回以上連続して発音する。
- 2) 生徒：チャンクを聞きながら意味の確認をする。
- 3) 生徒：教師のチャンクの発音を復唱して、「耳慣らし」「意味理解」「口慣らし」をする。
- 4) 生徒(協働学習)：ペアでチャンクを発音して和訳をしたり、和訳からチャンクを言ったりする。
そして、聞き取りを助けるタスクとして、「助けられたカメは漁師に何と言い、そのあとふたりはどうしましたか」と質問し、チャンクリストで学習した“Thank you.”, “go under the sea”, “The man and the turtle”, “went into the sea”を思い出させて、答えを探させます。

5. おわりに

チャンクを活用すると、英語は速くても聞き取れるようになり、またリーディングそしてスピーキングやライティングの基礎力にもなっていくでしょう。